

平成31年度第1回保呂羽山少年自然の家協働会議 会議録【要旨】

1 日時・場所

平成31年4月8日（月） 午前9時30分から
保呂羽山少年自然の家 1階 ジュピター（視聴覚室兼研修室）

2 出席者

(1) 委員 7名

高橋会長、高橋副会長、加藤委員、佐々木委員、沢村委員、武市委員、渡部委員

(2) 秋田県教育庁生涯学習課 3名

中山課長、山田副主幹（兼）班長、川田社会教育主事

(3) 保呂羽山少年自然の家 7名

赤川所長、田村副主幹（兼）班長、照井主任社会教育主事（兼）班長、
石塚主査、菊地技能技師、北畠社会教育主事、佐々木社会教育主事

3 次第

(1) 所長あいさつ

(2) 来賓紹介

(3) 生涯学習課長あいさつ

(4) 委員紹介及び職員紹介

(5) 会長及び副会長選任

(6) 会長あいさつ

(7) 議事①【協働会議の趣旨等について】

(8) 議事②【保呂羽山少年自然の家の運営等について】

4 発言要旨

(1) 協働会議の趣旨等について

- ・会議の開催等の情報は積極的に公開し、地域住民の参画のきっかけとすべきである。

(2) 保呂羽山少年自然の家の運営等について

- ・老朽化した施設の整備を含め、社会教育や体験活動の在り方を検討しなければならない。
- ・屋外施設のトイレも洋式化を進める必要がある。
- ・これまでに培った「子どもたちの教育の場」というイメージを払拭しなければ、企業や高齢者といった新たな利用者の獲得は難しい。
- ・子ども達の主体性を育てるためには自由な時間も重要である。
- ・障害のある子どもでも満足な活動ができるよう、サポート体制を構築してほしい。
- ・安全安心の観点は大切だが、小さなケガは成長において必要な経験である。
- ・天体ドームの利活用については移設を含めた検討が必要ではないか。
- ・市町村教育委員会や地域内にある教育関係施設との連携等を強める取組が重要である。
- ・複数泊することで得られる経験は大きい。2泊以上の宿泊体験活動を促進する必要がある。